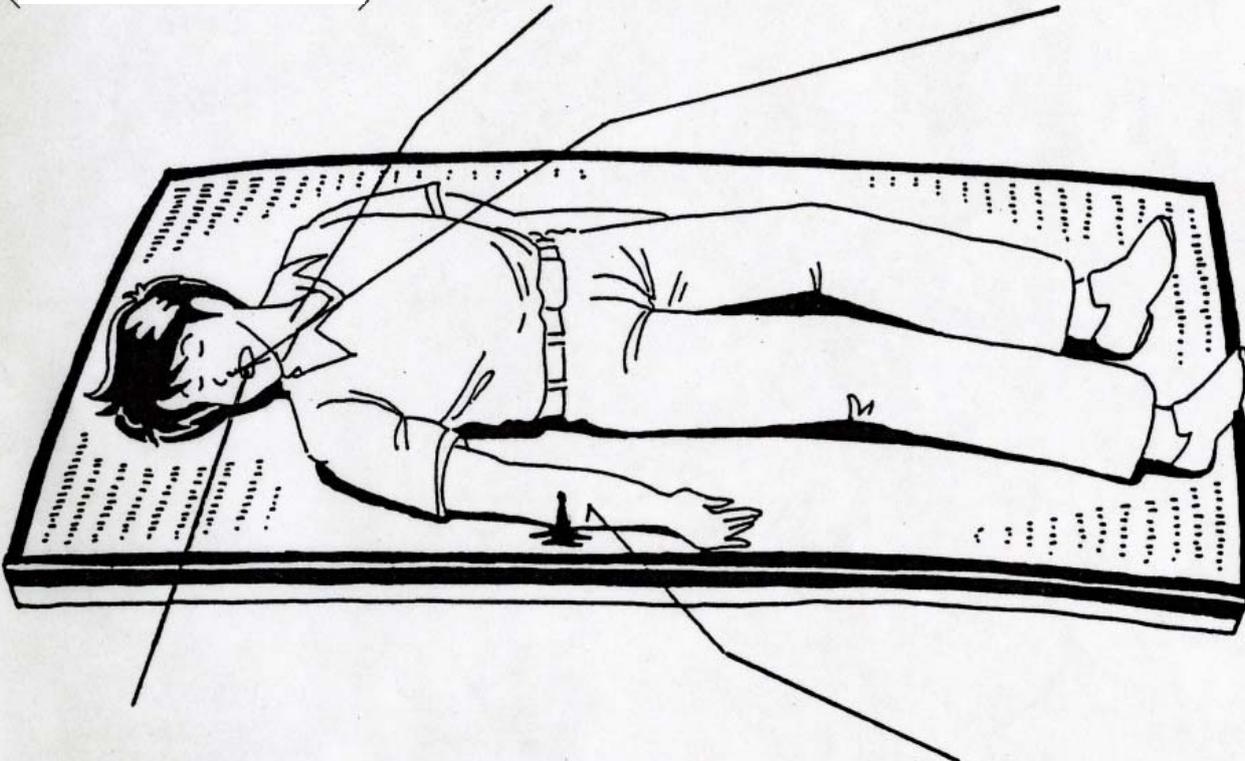


3 救護活動における資機材の活用要領

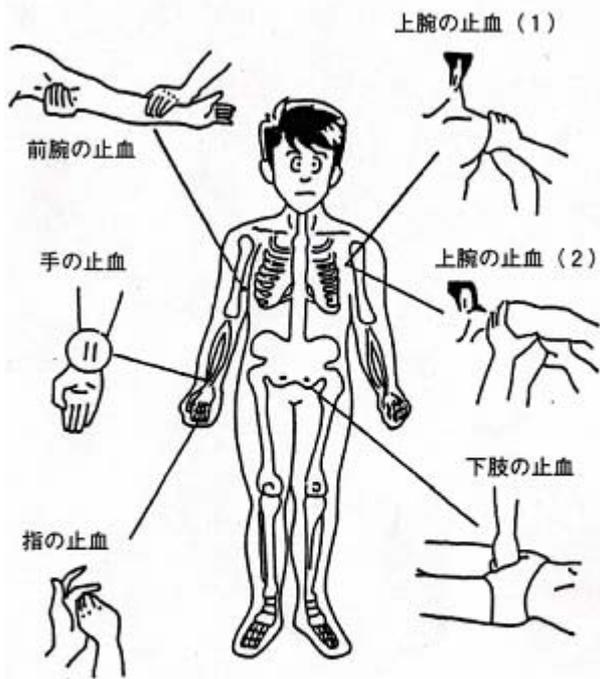
No. 1	人が倒れていたなら（容態の観察）	
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 周囲の安全の確保 倒れている場所が安全かどうかを確認し、危険な場所ならば安全な場所に移動します。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3 救急車の要請 まず、意識の有無を確認し意識がなければ近くの人に協力を求め、「119 番通報」「応援者の要請」「AEDの手配」を行います。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5 気道の確保 意識がないときは呼吸がしやすいよう空気の通り道の気道を確保します。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>6 呼吸の観察 正常な呼吸がなければ、すぐ人工呼吸を2回行います。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4 口腔の異物除去、清拭 口の中に何かつまっていたら取り除きます。 血液やだ液は拭きとります。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>7 胸骨圧迫（心臓マッサージ） 人工呼吸後は、直ちに胸骨圧迫（30回）を開始します。 ※疲れてくるため、約2分間を目安に交代しましょう。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2 出血の観察 大出血があったらすぐ止血します。</p> </div> </div> </div>		
指 導 上 の ポ イ ン ト	注 意 事 項	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 容態の観察を行う前に、倒れている場所が安全かどうかを確認し、危険な場所ならば安全な所に移動します。 ○ 熱（日）射病を除き、衣服、毛布等で身体を包み保湿します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 骨折があるかもしれないので、止むを得ず動かしたりするときはできるだけ静かに行います。 	

① 《直接圧迫止血法》



出血部位を清潔なガーゼや布で、強く押さえる方法です。

② 《間接圧迫止血法》

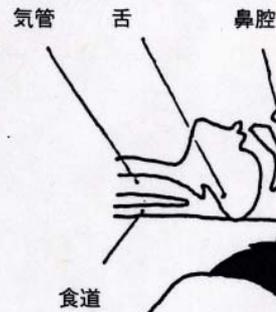


動脈性の出血が激しく続いている時に、包帯やガーゼを準備する間に手で止血点を圧迫する方法です。

指 導 上 の ポ イ ン ト

- 出血部位を抑えるガーゼや布は清潔で厚みがあり、出血部位を十分に覆うことができますのを使います。
- 血液からの感染を防ぐため、ビニール・ゴム手袋の利用、それらがなければビニールの買物袋などを利用する方法もあります。

人指し指と中指であごの先を持ち上げながら額に手を置き、頭を後へそらせて喉を開きます。



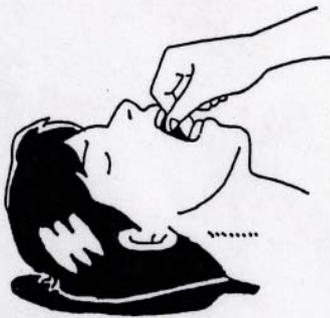
意識を失うと舌が落ち込んで呼吸ができなくなります。

（気道とは、鼻や口から空気が肺まで通る道のことです。）

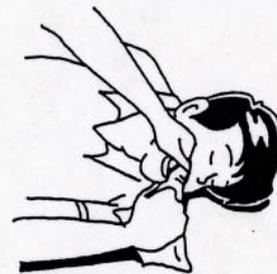
○ もし口腔内に異物が見えたら

①口の開け方は、指を交差させて親指を上歯に、人差し指を下歯に当て開口します。（指交差法）

②嘔吐物などがあれば拭き取ります。



口の中に、吐いた物などの異物が喉につまっているか調べます。



指 導 上 の ポ イ ン ト

- 意識がなくなると、あご、首、舌などの筋肉が緩み、舌の付け根がのどに落ち込んで気道を狭くし、次第に気道をふさいで呼吸困難となることから、気道の開放を急ぐ必要があります。
- 口の中の嘔吐物などを取り除く場合は手指にハンカチ、ガーゼ等を巻き、口腔内の異物をかき出す。（指拭法）

注 意 事 項

- 口の中の嘔吐物を拭き取るときは、顔を横に向けさせ異物を口の中に押し込んだり嘔吐をさせないように注意します。
- 乳児や小児は首がしなやかなので、頭を後ろにそらせ過ぎると、逆に気道を塞いでしまうので注意が必要です。
- 窒息しているが、反応がある時は、肩甲骨の間を力強くたたく方法もありますが、反応がなくなった場合は、心配蘇生法を行ってください。

①親指と人指し指で、鼻をつまみ鼻の孔をふさぎます。



②大きく口をあけて静かに1回1秒かけて息を吹き込みます。



③抵抗なく息が入れば、もう一回息を吹き込みます。



④2回吹き込んだら胸骨圧迫（心臓マッサージ）を30回行い、人工呼吸、胸骨圧迫を繰り返します。
※疲れてくるため、約2分間を目安に交代しましょう。



《乳児の心肺蘇生法》



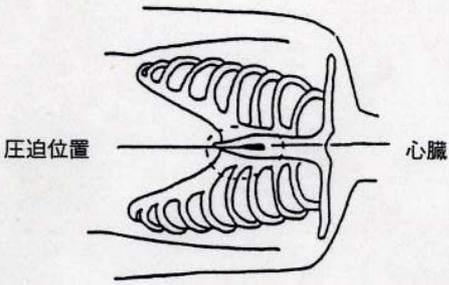
指 導 上 の ポ イ ン ト

○ うまく胸が上がらない場合でも、2回の吹込み（人工呼吸）が終われば胸骨圧迫を行います。

注 意 事 項

- 乳児や小児にあまり強く息を吹き込むと、肺組織を損傷させる危険があります。軽く胸が上がるのを確認してください。
- 血液・嘔吐物が見られ、感染防止用具を持ってない時は、人工呼吸を省略して胸骨圧迫（心臓マッサージ）を行ってください。

《心臓マッサージの圧迫位置》



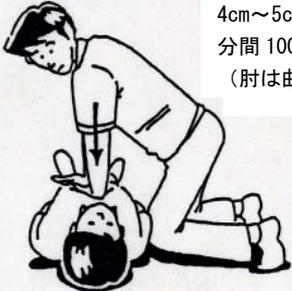
圧迫位置

心臓

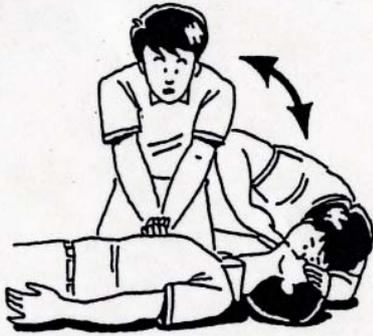


胸にあてる手の部分

胸の真ん中（乳頭と乳頭を結ぶ線の真ん中）



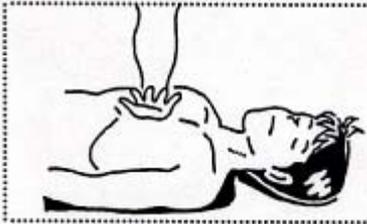
①手を重ね、垂直に体重をかけ、胸骨が4cm～5cm 下方に圧縮されないように1分間100回の速さで30回圧迫します。（肘は曲げない）



②30回圧迫後、人工呼吸を2回行います。この操作を次の要領で繰り返します。

《小児の場合》

圧迫位置は成人と同じ。
両手または片手で、毎分100回の速さで圧迫します。
（圧迫の強さは胸の厚みの3分の1を目安に）



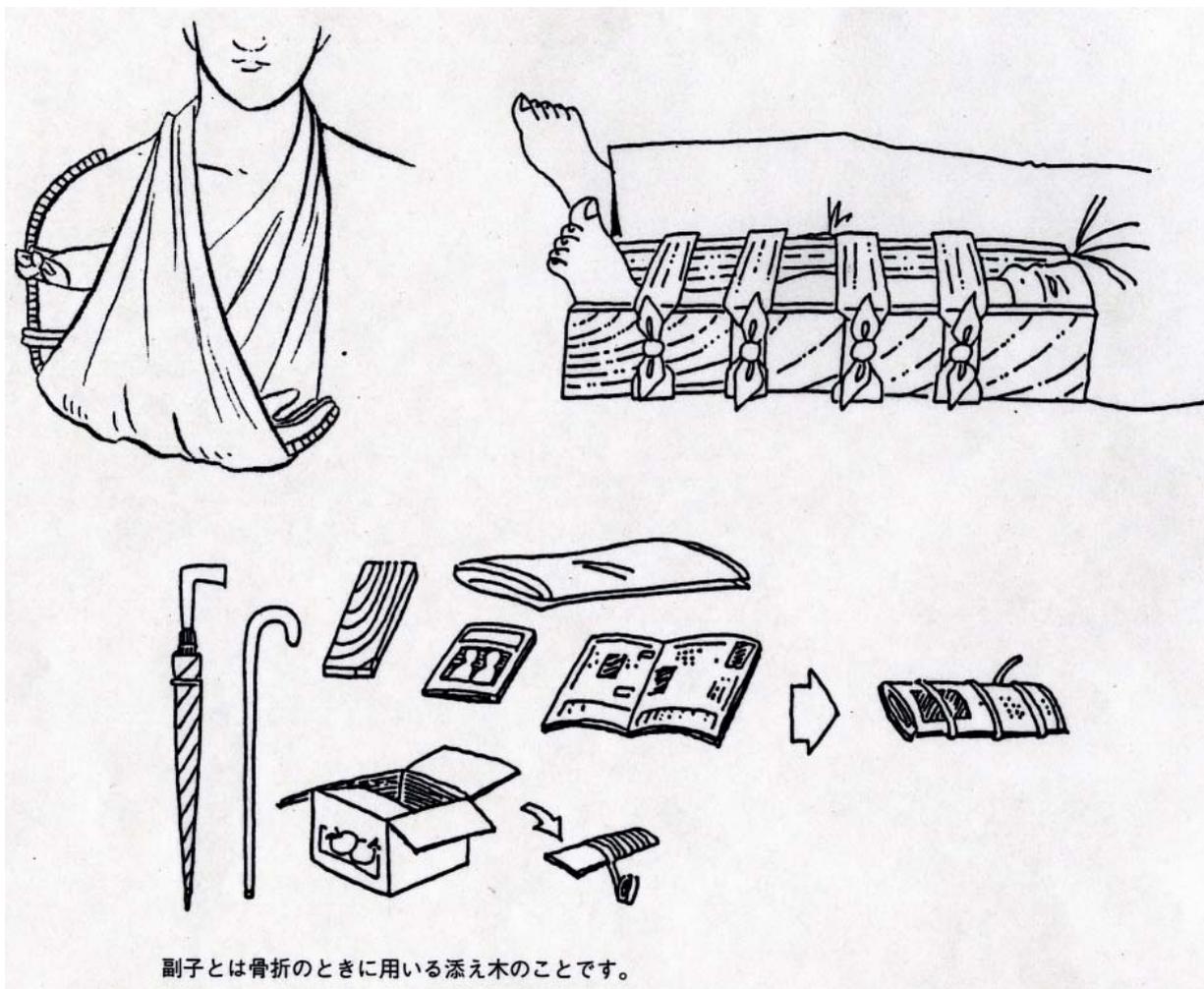
《乳児の場合》

中指と薬指で少なくとも毎分100回以上の速さで圧迫します。



- 応援者がAEDを持って来た時は、AEDの電源を入れ、音声メッセージに従って操作し、除細動ボタンを押してください。
- 電気ショック（1回）後は、直ちに胸骨圧迫、人工呼吸の順で心肺蘇生法を続けます。

指 導 上 の ポ イ ン ト	注 意 事 項
<ul style="list-style-type: none"> ○ 2人で行う場合も、胸骨圧迫（心臓マッサージ）30回に人工呼吸を2回行い、30対2の割合で胸骨圧迫（心臓マッサージ）と人工呼吸を行います。 ○ 小児、乳児では1人法、2人法ともに30対2の割合で、胸骨圧迫（心臓マッサージ）と人工呼吸を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誤った位置を圧迫すると効果が少ないばかりでなく、肋骨を折ったり、臓器を損傷させることがあります。 ○ 乳児の心臓マッサージの圧迫位置は、左右乳頭を結ぶ線の少し足側となります。 <p style="text-align: center;">消防署では毎月第3日曜日の「応急手当の日」に、市民救命士養成講習会を開催しています。定期講習会以外の受講にも応じますので消防署へご相談ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東消防署 0897-55-0119 ・ 西消防署 0898-68-0119



副子とは骨折のときに用いる添え木のことです。

<p>使用資機材</p>	<p>週刊誌、段ボール、ものさし、杖、傘、毛布、座蒲団、風呂敷、シーツなど</p>
--------------	---

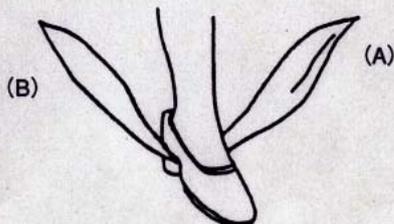
<p>指 導 上 の ポ イ ン ト</p>	<p>注 意 事 項</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 副子は肋骨部分の上下の関節を固定できる長さのものを使います。 ○ 副子の隙間には、柔らかいタオルなどを挟みます。 ○ 固定は2人1組で実施し、1人は骨折部を動かさないようにしっかり持ち、もう1人は柔らかいネクタイなどを使って、傷つけないように副子を固定します。 ○ 腕の骨折の場合は、副子で固定後、さらに揺れないように三角巾や風呂敷で固定します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大出血や意識障害など直接生命に関わるような症状が認められたときは、これらに対する応急手当を優先します。 ○ 骨折部分が変形していたり、骨が飛び出している場合は、触れたり、戻したりしません。 ○ 固定は、骨折している箇所の上下の2か所の関節を一緒に固定します。 ○ 結び目は骨折箇所の真上にならないように配慮します。

注意：控減症候群（クラッシュシンドローム）について

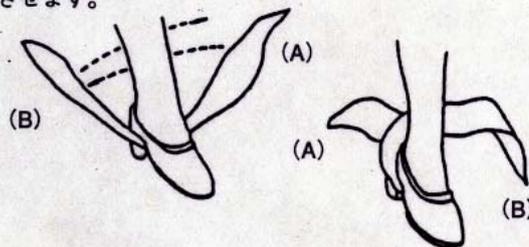
クラッシュシンドロームとは、重量物の下敷き等により脚や体幹部が長時間圧迫され、これを解除された後に損傷を受けた筋組織から多様な毒素が血液中に流れ出し、ショックや腎不全を起こすものと定義付けられています。

怪我の手当てを正しく行い、早期に医療機関に収容する必要があります。

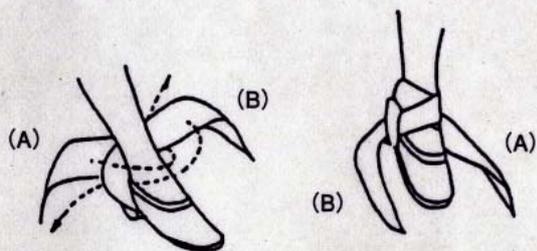
①八つ折りたたみ三角巾1枚を準備し、たたみ三角巾の中央部を足底部に当てます。



②たたみ三角巾の両端を足首後方に引き上げて交差させます。



③たたみ三角巾の両端を足の甲の方に回し、足首で交差させ、両端をかかと斜めに巻いた三角巾の内側に通します。



④たたみ三角巾の両端を足首前方部に引締めながら、足首前部で結びます。



使用資機材

三角巾、風呂敷

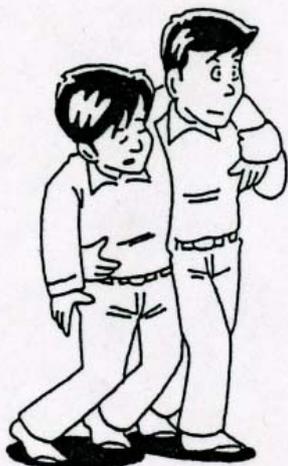
指導上のポイント

○ 靴は副子（骨折のとき用いる添え木）のかわりになるので、脱がないでその上から三角巾などで固定して応急手当てをします。

注意事項

○ ねんざか骨折か分からない時は、骨折しているものとして、応急手当てを行います。

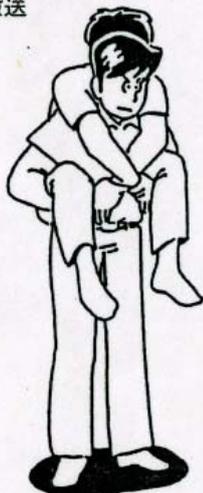
① 1人支持搬送



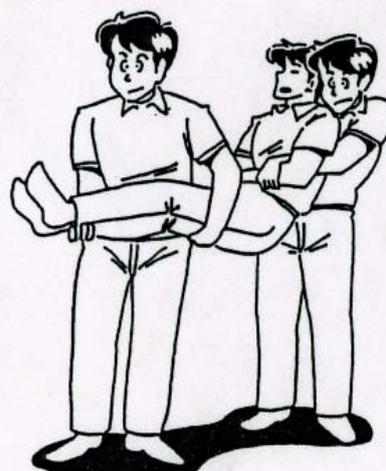
② 抱き上げ搬送



③ 背負い搬送



④ 2人支持搬送



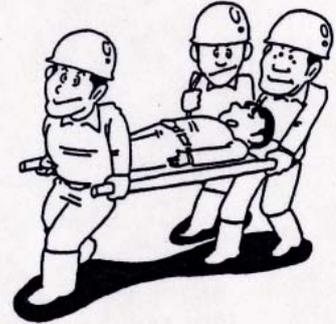
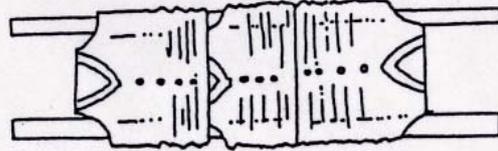
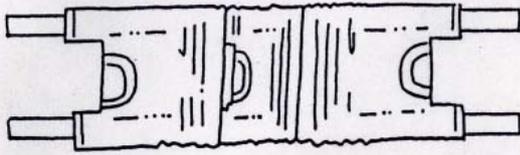
指 導 上 の ポ イ ン ト

注 意 事 項

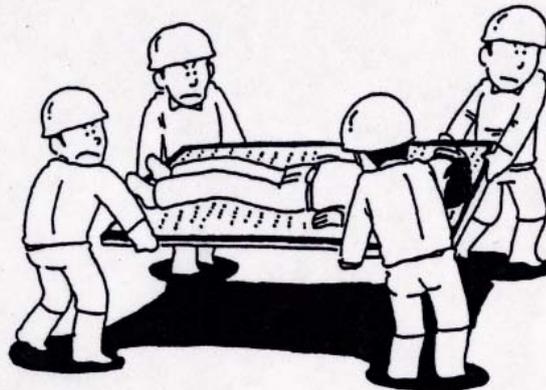
- 1人搬送
 - ・ 1人支持搬送
支持者が松葉杖的な役割を果たすもので意識があり歩行可能な負傷者、又は片足に軽傷を負った負傷者に用います。
 - ・ 抱き上げ搬送
負傷者を短距離搬送するのに適し、小児乳幼児及び体重の軽い負傷者に用います。
- 2人搬送
1人支持搬送の要領で、2人より搬送するもので骨折患者以外の負傷者に用います。

- 1人搬送
 - ・ 支持搬送
骨折のある負傷者、両下肢を受傷し、歩くことができない人には適しません。
 - ・ 抱き上げ搬送
脊椎損傷、骨折のある負傷者には適しません。
 - ・ 背負い搬送
骨折、内臓疾患のある負傷者には適しません。
- 共通事項
 - ・ 足場が悪いため、片手は使えるように配慮します。
 - ・ 徒手で運ぶ場合は、狭い通路、階段等で搬送資機材が使用できない状況で、緊急に安全な場所に移動するために行うもので、慎重に行っても負傷者に与える影響が大きいことを認識して、必要最小限にとどめる必要があります。

①着衣の利用



②畳の利用



使用資機材

物干し竿 (2本)、上着・トレーナー (4~5枚以上)、畳

指導上のポイント

- 前合わせの上着などのボタンは必ずかけておきます。
- 上着やトレーナーなどを裏返しにして袖を物干し竿に通します。
- 少しずつ重ねて、すきまなく並べます。
- リーダーの合図で静かに立ち上がります。

注意事項

- 原則として3人1組で搬送するものとし、1名が担架の横につき負傷者の状態に注意します。
- 負傷者の足側を先にして、振動を与えないように、しかも水平になるように静かに運びます。
- 担架を持ち上げる時には、腰を落として持ち上げないと腰を傷めます。
- 雨戸等を使用する方法もありますが、倒壊した建物からは、外れなかったり曲がったりしているため使えないことがあります。